

報道各位

No.18000155T

2019年2月28日

ヒューマンタッチ株式会社

ヒューマンタッチ総研が独自分析 2019年3月期第3四半期決算から見る建設市場の動向 ～業界全体として好調な決算も、土木工事業は減収減益～

ヒューマンホールディングス株式会社の事業子会社で、人材紹介事業を行うヒューマンタッチ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役:高本和幸、以下「ヒューマンタッチ」)が運営するヒューマンタッチ総研は、総合工事業(ゼネコン)、土木工事業、電気設備工事業、管工事業の4業種に分けて、2019年3月期第3四半期決算から見る市場動向をまとめました。対象は3月期決算で2018年3月期売上高の上位各10社です。

【本件のポイント】

- ・4業種別主要上場企業各10社の2019年3月期の第3四半期決算から見る建設市場動向をまとめた
- ・土木工事業は減収減益となるも、電気設備工事業と管工事業は増収増益に転じ、業界全体として好調な決算に
- ・ゼネコンは減益ながら売上高は前年同期より増加し、手持ち工事の消化は順調に進行

＜全体概況＞電気設備工事業と管工事業は増収増益で好調

2019年3月期の第3四半期決算(連結)の各業種主要10社の実績を合計すると、電気設備工事業と管工事業は増収増益となり、業界全体として好調な決算となりました。ゼネコンは減益ながら売上高は前年同四半期比106.1%となり、手持ち工事の消化は順調に進んでいるとみられます。一方、土木工事業は減収減益となっており、売上高、収益性ともに厳しい決算となっています(=図表①)。

【図表① 各業種主要10社の2019年3月期の第3四半期決算(連結)の実績合計】

	2019年第3四半期					参考 第2四半期 傾向
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比	傾向	
総合工事業(ゼネコン)	7,411,727	106.1%	566,868	91.7%	増収減益	増収減益
土木工事業	1,015,183	99.6%	69,511	88.0%	減収減益	減収減益
電気設備工事業	2,107,976	109.9%	127,710	102.1%	増収増益	増収減益
管工事業	923,006	106.2%	40,647	103.3%	増収増益	増収減益

＜総合工事業(ゼネコン)＞10社中9社が増収、4社が増収増益

各社ともに潤沢な手持ち工事を順調に消化して10社中9社が増収となり、全体として好調な決算となっています(=図表②)。

大林組、清水建設、長谷工コーポレーション、前田建設工業の4社が売上高、利益ともに好調に推移し、増収増益となっています。長谷工コーポレーションと前田建設工業は好調な業績推移を受けて、通期業績予想を売上高、利益ともに上方修正しています。

一方、18年7月に発生した建設現場での大規模火災の影響などから、第2四半期発表時において通期業績予想を売上高、利益ともに大幅に下方修正した安藤ハザマは、第3四半期についても減収減益となりました。

また、戸田建設は第3四半期の業績動向を踏まえて、売上高、利益ともに通期業績予想を下方修正しています。

※竹中工務店は非上場のため除いています

【図表②】ゼネコン主要10社の2019年3月期の第3四半期決算(連結)の実績

	企業名	2019年第3四半期					通期業績予想の修正
		売上高 (百万円)	前年 同四半期比	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比	第3四半期 傾向	
1	大林組	1,482,513	108.1%	113,076	107.8%	増収増益	無
2	鹿島建設	1,405,208	105.5%	112,165	85.8%	増収減益	無
3	清水建設	1,150,611	109.6%	82,878	101.6%	増収増益	無
4	大成建設	1,097,508	101.3%	89,295	75.9%	増収減益	無
5	長谷工コーポレーション	655,379	113.0%	71,273	107.5%	増収増益	売上・利益ともに上方修正
6	五洋建設	385,640	102.1%	18,418	87.8%	増収減益	無
7	前田建設工業	349,401	101.6%	27,864	101.1%	増収増益	売上・利益ともに上方修正
8	戸田建設	327,821	113.2%	19,901	88.3%	増収減益	売上・利益ともに下方修正
9	三井住友建設	304,564	104.2%	20,715	98.7%	増収減益	無
10	安藤ハザマ	253,082	93.8%	11,283	45.3%	減収減益	無

出所:各社の2019年3月期第3四半期決算短信より作成

<土木工事業>10社中7社が減益 道路舗装業各社が総じて厳しい決算に

10社中7社が減益となり、収益面で厳しい決算となっています(=図表③)。第2四半期に減収減益となり通期の利益予想を下方修正した、道路舗装業界首位のNIPPOは第3四半期についても減収減益の決算が続いています。

道路舗装業界2位の前田道路も減収減益となり、通期業績予想を売上高、利益ともに下方修正したほか、増収減益の東亜道路工業も通期業績予想を売上高、利益ともに下方修正しました。第2四半期に売上高、利益ともに下方修正した世紀東急工業は減収減益に転じ、道路舗装業各社は総じて厳しい決算となりました。

一方、鋼製橋梁、プレストレスト・コンクリート橋梁を主要分野とする川田テクノロジーズは増収増益となり、第2四半期に続いて通期の利益予想を上方修正しました。また、法面保護工事、斜面安定・防災工事、地盤改良工事などを中心に手掛けるライト工業や日特建設も増収増益となっています。

【図表③】土木工事業主要10社の2019年3月期の第3四半期決算(連結)の実績

	企業名	2019年第3四半期					通期業績予想の修正
		売上高 (百万円)	前年 同四半期比	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比	第3四半期 傾向	
1	NIPPO	285,579	99.9%	25,249	89.8%	減収減益	無
2	前田道路	157,145	95.4%	10,435	65.6%	減収減益	売上・利益ともに下方修正
3	日本道路	103,508	106.3%	4,748	92.9%	増収減益	無
4	川田テクノロジーズ	86,122	112.0%	5,020	227.3%	増収増益	利益を上方修正
5	東鉄工業	82,303	102.4%	7,227	92.2%	増収減益	無
6	ピーエス三菱	73,713	84.9%	3,586	68.8%	減収減益	売上を下方修正、利益を上方修正
7	ライト工業	73,210	102.2%	6,972	103.2%	増収増益	無
8	東亜道路工業	61,642	104.9%	566	33.3%	増収減益	売上・利益ともに下方修正
9	世紀東急工業	47,411	89.6%	2,988	85.8%	減収減益	無
10	日特建設	44,550	102.2%	2,720	102.6%	増収増益	無

出所:各社の2019年3月期第3四半期決算短信より作成

<電気設備工事業>増収増益企業が増加、全体として好調に推移

関電工、きんでん、コムシスホールディングス、協和エクシオ、トーエネック、住友電設の6社が増収増益(第2四半期決算では5社)となり、全体として好調な決算となりました(=図表④)。

業界2位のきんでんは好調な決算を背景に、通期見通しを売上高、利益ともに上方修正しました。また、コムシスホールディングスと協和エクシオは、それぞれ同業子会社の経営統合を18年10月に完了したことがプラス要因となり、大幅な増収増益になっています。

一方、ユアテックと中電工の2社は減収減益で、中電工は通期利益予想を下方修正しました。

【図表④ 電気設備工事業主要10社の2019年3月期の第3四半期決算(連結)の実績】

	企業名	2019年第3四半期					通期業績予想の修正
		売上高 (百万円)	前年 同四半期比	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比	第3四半期 傾向	
1	関電工	387,716	113.3%	19,967	106.0%	増収増益	無
2	きんでん	331,331	100.5%	22,216	105.2%	増収増益	売上・利益ともに上方修正
3	コムシスホールディングス	304,303	124.9%	20,436	119.4%	増収増益	無
4	九電工	252,083	109.5%	19,282	92.6%	増収減益	無
5	協和エクシオ	247,625	125.8%	17,418	116.7%	増収増益	無
6	トーエネック	153,770	106.1%	5,885	127.9%	増収増益	無
7	ユアテック	138,764	95.2%	4,512	66.5%	減収減益	無
8	住友電設	111,243	106.8%	8,795	110.5%	増収増益	無
9	中電工	98,731	99.6%	4,660	56.0%	減収減益	売上を上方修正、利益を下方修正
10	日本電設工業	82,410	101.1%	4,539	99.2%	増収減益	無

出所:各社の2019年3月期第3四半期決算短信より作成

<管工事業>増収企業が増加し、好調な決算が続く一方、減収減益の企業も

三機工業、ダイダン、朝日工業社、テクノ菱和の4社が増収増益になるなど、豊富な手持ち工事を背景にして、10社中7社が増収(第2四半期決算では6社)となりました(=図表⑤)。

第2四半期に通期業績予想を売上高、利益ともに上方修正した三機工業に続き、第3四半期においては、テクノ菱和が売上高、利益を上方修正しました。

一方、ヤマト、大成温調の2社は減収減益決算となりました。また、第2四半期に通期業績予想を売上高、利益ともに下方修正した日比谷総合設備は赤字に転じています。

【図表⑤ 管工事業主要10社の2019年3月期の第3四半期決算(連結)の実績】

	企業名	2019年第3四半期					通期業績予想の修正
		売上高 (百万円)	前年 同四半期比	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比	第3四半期 傾向	
1	高砂熱学工業	220,516	108.8%	11,459	97.7%	増収減益	無
2	大気社	154,603	95.3%	8,744	126.6%	減収増益	無
3	三機工業	142,046	122.9%	5,388	176.9%	増収増益	無
4	ダイダン	110,776	107.9%	5,755	103.7%	増収増益	無
5	新日本空調	80,179	106.9%	1,827	98.7%	増収減益	無
6	朝日工業社	59,484	102.8%	3,046	102.0%	増収増益	無
7	テクノ菱和	45,750	109.8%	2,481	155.3%	増収増益	売上・利益ともに上方修正
8	日比谷総合設備	44,128	102.2%	-565	-	増収減益	無
9	ヤマト	33,195	99.4%	2,146	76.5%	減収減益	無
10	大成温調	32,329	92.1%	366	20.7%	減収減益	無

出所:各社の2019年3月期第3四半期決算短信より作成

* 日比谷総合設備の前年同四半期の経常利益は1,091百万円

■ヒューマンタッチ総研所長・高本和幸(ヒューマンタッチ代表取締役)のコメント

2019年3月期第3四半期の主要建設関連企業の決算結果を見ると、ゼネコン、電気設備工事業、管工事業において、豊富な手持ち工事を背景に順調に売上高を確保して、好調な決算になっています。

一方、ゼネコンの第3四半期の単体受注高を見ると、大林組、鹿島建設、清水建設、大成建設の大手4社はいずれも前年同四半期を割っており、来期に向けて若干の不安材料だと考えられます。

また、土木工事業では、道路舗装業各社は売上高、利益ともに苦戦が続いていますが、橋梁工事や法面保護工事などを中心に手掛ける企業は好調な決算になっています。

今後の大きな課題は、年度末に向けて増加する工事量を確実に予定通り進捗させるための人材および資機材の確保と、来期に向けての受注高の積み上げだと考えられます。



会社概要

ヒューマンタッチ株式会社

- 代表者:代表取締役 高本 和幸 ●所在地:東京都新宿区西新宿 7-5-25 西新宿プライムスクエア 1F
- 資本金:1億円 ●コーポレートサイト URL:<https://human-touch.jp/>
- ヒューマンタッチ総研サイト URL:<https://kensetsutenshokunavi.jp/souken/>

＜このレポートに関するお問い合わせ＞

ヒューマンタッチ株式会社 ヒューマンタッチ総研担当

TEL:03-6872-1027 E-mail: htsouken@athuman.com

＜このリリースに関するお問い合わせ＞

ヒューマングループ 広報担当:外川まで

TEL:03-6846-8002 FAX:03-6846-1220 E-mail: kouhou@athuman.com